

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3170101186		
法人名	医療法人社団 内科小児科山脇医院		
事業所名	グループホームふたば (まんようの家1F・いなばの家2F)		
所在地	鳥取県鳥取市国府町稲葉丘3丁目303		
自己評価作成日	令和元年11月11日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和元年11月29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の各事業所が開催する行事や催しに参加し、繋がりを深めている。</li> <li>・地域の行事に積極的に参加すると共に、町内会にも入れて頂き活動している。(納涼祭、清掃活動、防災訓練等)</li> <li>・運営推進会議のメンバーが多方面、多領域で構成されている。</li> <li>・町内会の防災訓練と一体で実施し、緊急時においても町内からの支援がある。</li> <li>・誕生会や新緑遠足等の大きな行事ではご家族に参加の声掛けを行っている。</li> <li>・概ね月に一度は季節にちなんだ行事を行っている。</li> <li>・年に1度、セルフチェックシートを活用し職員のサービスの質を一定にしている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>併設の老健・訪問看護ステーションと連携し、地域とのつながりを大切に施設運営を心がけられている。地域行事に積極的に参加し、地域住民には施設行事への参加を呼びかけ、地域・施設双方の交流を図りながら協力関係を築かれている。</p> <p>事業所独自のセルフチェックシートによる業務内容の振り返りを実施。職員はやりがいを持って仕事に取り組んでいる様子が見え、</p> <p>年2回家族会を開催し利用者家族・職員との交流を図られ、毎月のおたよりにご意見書用紙を同封し、家族の意見をサービスの向上に繋げるよう努められている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「思いやり・まごころ・親切」とグループホーム理念「尊重・協働・共感」やすらぎのあるホームを目指している。朝礼時に唱和を行い、共有して実践に繋げている。	法人理念、及びグループホーム理念は各フロアの玄関に掲示され、毎朝、朝礼時に唱和されている。日々の生活の中で、利用者を尊重しつつ、協働し、共に同じ感動を味わうという思いで支援されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事(清掃、防災訓練等)には出来る限り参加し、町内の一員として交流を行っている。運営推進会議には町内会長に声をかけ、参加をお願いしている。	町内会に加入し、清掃活動、地区防災訓練へ参加する他、納涼祭、敬老会等の施設行事への参加を呼びかけ交流されている。運営推進会議のメンバーである町内会長、地区民生委員、地域ボランティアグループ代表者から地域の情報を得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の研修や中学生の職場体験を通じて、認知症の理解や支援の方法について学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催し、家族・町内・小中学校・消防署・行政等の代表参加の下、報告、意見交換、提言を頂いている。その場で出た意見を生かし業務改善を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、行事報告・研修・事故報告のほか、意見交換・情報交換が行われている。又、町内会役員より浸水対策の助言をもらい、改善に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	国府総合支所市民福祉課課長、鳥取市東健康福祉センター所長が、推進会議のメンバーであり会議を通じて相談しながら協力関係を築いている。	市町村担当者とは運営推進会議での話し合いの他、事故報告での対処法やアドバイスをもらわれ、協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	買い物等で職員が出てしまい、入居者9名に対し職員1名の場合、又は入居者の方々に危険が及びかねない時(夜間、早朝)は、玄関に施錠を行っているがそれ以外は見守りを重視している。身体的拘束適正化委員会を起し毎月身体的拘束について議論をしている。	身体拘束適正化指針をもとに職員間で、身体拘束の必要性について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組まれている。早朝・夜間及び昼間、必要時以外は施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員のオリエンテーションにおいて、虐待防止の徹底を伝達している。高齢者虐待防止は年4回のスタッフ研修に取り入れ職員の質向上、意識の再確認に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について全職員が十分に理解している所まで至っていない。権利擁護は虐待防止、身体的拘束防止にも関連する為、取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金表、利用約款等を元に、家族への説明を行っている。個人情報についても同意書を頂いている。介護保険の改定等に伴う料金の変更では、文章での通知と個別の相談により理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に話を伺ったり、送付する書類にご意見を聞く書類を同封している。年2回家族会を開いて、そこでも意見を伺っている。	5月の新録遠足、7月夏祭りの際、家族会が開かれ、職員との交流および意見を聞く機会を持たれている。毎月のおたよりの中に「ご意見用紙」を同封し、意見があれば、来所の際、玄関に設置されたご意見箱に投函してもらわれている。又、回答は年4回の広報誌発行の他、機会を見て利用者家族に公表されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会より月1回の業務改善会議に提起し職員の意見を聞く機会を設けている。個別でのテーマの話し合いが必要な場合には、代表者も参加し意見交換を行っている。	事故・感染・接遇の各委員会が設置され、月1回併設老健、訪問看護ステーションと合同で業務改善会議が開かれ、そこでの意見を運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	セルフチェックシートを活用し職員の個々の様子や仕事ぶりについて把握できるように努めている。また、管理者との面談を通じ、個々が働きやすいように職場環境などの整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年3回の研修会、又各部署で年4回のスタッフ会議を行っている。外部研修についても情報提供を行い、学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修について情報提供を行い、同業者と交流できる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に不安な事や要望を聴き取り、ご家族からの情報を合わせて本人に安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談時に不安な事や思い、要望を伺いそれらを解決しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時の聞き取りにて必要なサービスを判断し、本人のニーズに合わせた支援を他のサービスも検討しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と一緒に生活していく中で、一緒に考えたり、話を聞くことで一人ひとりの気持ちに寄り添い、お互い相談し助け合える関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活での出来事や様子を月に一度お手紙を送付し伝えている。又、面会時にも口頭で伝えている。行事等では参加の声掛けを行い、ご家族も一緒に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩等で入居前に関係が良かった方と会えるよう支援を行っている。又、ドライブで地域の馴染みの場所へ出掛けるようにしている。	馴染みの人や場所との関係が途切れない様、天気の良い日は散歩やドライブに出かけられている。法事や家族との外食支援、外泊支援を行い、今までの関係が途切れない様努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話ややり取りが出来る様、職員が中に入り円滑になるよう努めている。又、入居者が孤立しないよう雰囲気を読み声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく入院等で退居となる場合でも、ご家族にこれからの事をお伝えし相談に乗っている。必要に応じて他のサービスを紹介することも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の表情や行動に気を配り、思いや気持ちを汲み取るよう努め、本人の意向に添えるよう職員間で共有し検討している。	日々の会話の中で、思い出や生活歴を聞かれたり、問いかけに対しての表情や返事から、本人の意向を汲みとられている。職員間で検討し、穏やかに過ごせるよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に本人や担当ケアマネ、ご家族から情報収集している。また入居されてからも何気ない言葉や行動から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者との日々の関わりの中で得た情報を記録して職員間で共有し現状を把握している。又、担当職員を定め、その方に集中して現状把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、(担当)職員から聞き取りを行い計画書に反映している。ケア会議を3ヶ月に一回、モニタリングを毎月行っており、会議では医師や法人の看護長が参加し様々な意見を取り込んでいる。	介護計画は、サービス担当者会議にて、主治医・担当者・看護師を含め話し合われ、6ヶ月に1回作成されている。リハビリ計画書は3ヶ月に1回作成し、必要に応じてその都度見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の出来事、会話のやり取り、普段とは違った様子を介護職員としての目線で日々記録を行っている。個別の記録を活用して介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列の医院が主治医の方は、2週に1回定期受診をしている。状態によって医師が往診に来ている。訪問看護にて入居者の状態を把握し対応している。インフォーマルサービスを活用して外部受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他職種(居宅ケアマネ、支援相談員等)から情報を集め地域資源の情報収集に努めている。地域ボランティアの行事参加、外部受診に生かされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を伺っている。ご家族の負担軽減に配慮しながら意向を伺っている。	本人や家族の希望に添った受診支援が行われている。入居の際にはかかりつけ医を聞かれ、外部受診の場合は家族同行、系列医院での受診には職員が同行する等、適切な医療を受けられる体制を整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列の訪問看護の看護師に週に5日訪問してもらい、健康チェックや医療面での相談や助言をもらっている。看護師を通じて系列の医師や看護師と、医療面での情報を共有し連携を深めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、情報を病院へ提供している。又、不明な点を連絡された場合速やかに答えられるようにしている。病院関係者との関係づくりまでは至っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で先ず重度化、看取りについて説明している。その後は状態変化に応じて主治医、ご家族、事業所の三者で話し合い、状態の悪化や重度化の兆しが生じた場合には、治療方針や支援方法を医療、ご家族、事業所で話し合っている。	看取りについては利用の際、重要事項にて説明をされている。系列の医院と連携し、主治医が看取りの時期と判断された時に主治医、家族、事業所で話し合いが行われ、治療方針や支援方法を綿密に決められている。また、終末期に向けた指針についてより具体的にマニュアルを作成され、事業所でできることを十分に説明されながらチームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用法等救急救命についての講習を、年に1回鳥取消防署国府分遣所と連携して行っている。職員全員で緊急時に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策マニュアルを作成し職員に周知している。年2回の防火防災避難訓練では地域住民参加で夜間想定、水害時の垂直避難等も行っている。	避難訓練は年2回、地域の避難訓練と一緒にわれ、本年度はグループホーム独自での訓練も一回実施された。夜間想定、水害時の垂直避難を行い、全職員が身につけるよう努められている。	避難時の利用者の所在確認方法について、外部者にもわかるように検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性に合わせて、敬意を払った言葉かけに努めている。羞恥心やプライバシーに配慮したさり気ない介助を心掛けている。	家庭的な雰囲気の中でも、常に年配者への敬意を持った言葉遣いを心掛けられている。一人ひとりの個性や状態に合わせて声かけをし、口腔ケア、トイレ誘導等の支援をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定が行えるように選べる状態を作っている。又、答える時間を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースに配慮して、本人に聞いてから希望にそった支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で衣服を準備しているが、希望がない方は職員が選んでいる場面がある。自分で選べる方は選んでいただく配慮が必要と考える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物時好みの食材を選んで頂いたり、畑で採れた野菜を使って、下ごしらえや盛り付けができる支援を行っている。	献立は、旬の物や利用者の希望を聞いて買い物に行き、利用者と一緒に決められている。職員は利用者と共に、畑で取れた野菜などを使って、下ごしらえや盛り付けなどを行い楽しんでいる姿が見られた。メニューはボードに記入されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。食事量や水分量は記録し、体重の変化も合わせて、必要に応じて医療に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けをしている。自分で出来る方は行って頂き、出来ない方は職員が介助している。週に一度義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。必要に応じて紙パンツ、パット、オムツを使用しているが、都度検討して本人のQOL向上に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援に努められている。必要に応じて紙パンツ、パット、オムツを使用しているが、日中はトイレでの排泄を支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、水分摂取の声掛けや食材の工夫を行っている。又、出来る限り便器に座って頂き排便を促したり、運動を行っている。排便が滞ってる方へは医療で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け入浴して頂いている。利用者毎に週3回、入浴して頂いているが、希望があればいつでも入浴して頂いている。	利用者の希望に添って入浴が出来るよう体制を整えられている。利用者は週に3回は入浴出来るように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個別レク、合同レク、散歩等活動を行い、気持ち良く運動や活動が出来る様努めている。又午睡も長くない様にし、夜間気持ち良く休める様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をカルテに記載し職員が確認出来るようにしている。服薬支援は個人に合わせて行っている。体調の変化が来た時は医療に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の生活歴、能力に合わせた役割が提供出来る様努めている。又、好きな事や趣味を本人やご家族から伺い、情報収集に努めている。天候にもよるが散歩も出来るだけ行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候によるが散歩の声掛けを行い、出来るだけ外出の機会を増やしている。本人との何気ない会話から外出の希望を察した時はご家族に伝えている。	天候の良い日には散歩に出かけられている。農業をされていた利用者が多く、近隣にある畑で水やりや収穫などを楽しまれたり季節に合わせて、喫茶店や外食、またドライブに出かけられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金は持たれていない。買い物に一緒に行って頂いたときに支払いができる方はして頂くよう努める必要がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやりとりはして頂いている。その際は職員が番号を押している。入居者宛てにきた手紙はお渡ししている。体験学習に来た生徒に手紙をしたためたことがあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵や居室入口に飾を掛け季節を感じる工夫をしている。入居者の個別の性格に合わせた席になるよう配慮し、出来る限り居心地良く過ごせる様努めている。	共用空間は清潔に保たれ、季節を感じる展示物を壁に飾り、利用者と共に楽しまれている。玄関には季節の花が飾られていた。日中は作業をしたり歓談されたりと和やかに過ごせるよう努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係に配慮した席になるよう工夫している。又、少し離れた量の空間でくつろげることができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人、ご家族で相談して頂き、家庭で使用していた頃の馴染みの物や好みの物を持ち込める事を伝えている。	居室は温度、湿度管理に気を配られ、1階、2階共に清潔に保たれていた。馴染みの家具や飾り、TVが置かれ、思い思いの写真も飾られるなど居心地よく過ごせるよう工夫されていた。利用者一人ひとりが生活しやすいよう、物の配置に細かな配慮が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の生活歴や得意分野を元に、生活全般で出来る事を探り、出来る事をやっている事に繋がられるよう努めている。又、トイレの表示を貼り場所が分かるようにしている。		